



映画『夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年』

今から100年前、精神病に有効な治療法が無かった時代、座敷牢に幽閉された精神病患者は、なぜ閉じ込められなければならないのか? 精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ!

講演『100年たっても夜明け前』

講師 有我讓慶(ありが・じょうけい)氏

(看護師 光愛病院・NPO大阪精神医療人権センター理事)

今も続く精神科医療の中でなされている、権利侵害の数々…精神科病院の中で行われている行動制限(身体拘束・隔離)の実態について語っていただき、夜明けに向けて『今、できること』を共に考えましょう。

日時 : 2018年11月18日(日)13:30~17:00(開場13:00)

場所 : 明日都浜大津5階 大津市ふれあいプラザ大会議室
大津市浜大津四丁目1番1号 TEL 077-527-9552

電車 : 京阪浜大津駅から徒歩2分
JR大津駅から徒歩15分

参加費 : 1000円

申込み : メール又はFAXにてお申し込み下さい。

主催 : 滋賀県精神保健福祉士会

NPO法人 滋賀県精神障害者家族会連合会 (鳩の会)

後援 : 公益財団法人京都新聞社会福祉事業団 (予定)

映画「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」

呉秀三が、私宅監置(座敷牢)の実態調査を世に出して、今年100年の節目にあたる。呉は、調査報告書の中で、精神障害者が置かれている実態を指して、「この国に生まれた不幸」「この国目下の急務」と言い放った。

天皇制を絶対とする旧憲法下のこの時代に、国にもの申すというのは、それなりの覚悟がいったはずである。並々ならない信念と正義感を垣間見る思いがする。

呉の業績と調査報告書が発するメッセージは、表現こそ古い言い回しだが、内容は斬新である。まるで予言者である。隔離処遇にしる、身体拘束にしる、呉が、当時問題にしたテーマの基本は、現代の精神医療の実態にそのままあてはまる。

このドキュメンタリー映画が、日本の精神医療の「夜明け」をたぐり寄せる上でいささかでも貢献できればと思う。まずは観てほしい。

そして、地域で、学園で、そして精神科病院などで自主上映会を企画していただきたい。

きょうされん専務理事 呉記録映画企画責任者
藤井 克徳(ふじい かつのり)

参加申し込み

※送信先

滋賀県精神保健福祉士会事務局

障害者相談・生活支援センター やすらぎ 宛

FAX : 077-526-7803

※メールでの返信先 shigapsw@yahoo.co.jp

氏名			
所属名			
連絡先 (自宅・職場)	TEL:		FAX:
	Mail :	@	

定員に達した場合は締め切ることがあります。

会場地図

